

[2019/1/25]

24日のオペの時間は15時半から。朝から落ち着かず、病院の中をウロウロ。外の空気も吸いに行ったし、リハビリルームのmy担当のイケメン therapist、阿部さんにも握手をしに行きました。

「頑張っ、大丈夫だから！」とエールを下さった。

病室には応援の強カメンバー4名。これからオペを控える私の気持ちを癒してくれようと、あらゆる話をしてくれたり、マッサージもしてくれました。しかしドキドキ。

前の時間のオペが押していたので、ナースが迎えに来たのが30分遅れの4時。。。ドアのknock。いよいよです。God, help!

イザ、出陣!

応援団のフレンズがオペ専用のエレベーターまで付いてきてくれました。

そしてオペ室へと消えていった私～。

名前を再確認、ブルーのシャワーキャップみたいなのをかぶって、やたら天井が高く、電気が明るく、ベッドの高い部屋にエスコートされました。

あんなに恐怖におののいていたのですが、スイスイとベッドに横たわり、オペ室の美人ナース三人とBohemian Rhapsodyの話に花をさかせ、和気あいあいの雰囲気。私。。。「映画まだ見ないの!?じゃあ皆で行こう!」

すると後ろから麻酔の先生が「そろそろ薬をいれて行きますね」。

「終わりましたよ!」

気がついたらナースのまた笑顔が目の前に。終わったんだ。。。。

そのままベッドごと病室に戻され、ドクターの説明を頂いたのですが、酸素マスク、右腕は点滴、左腕は固定の血圧計、指には酸素濃度を図るものがはさまっているし、とにかく息苦しい～。

夜は更ける、部屋のライトが目眩しい、ナースは頻繁に出入り、そして身体全体が痛みに包まれている感じ。辛い。

《オペ直後》とはこの事だ。。。何とか朝まで耐えないと。

やっと巡り会えた、心から信頼するドクターの診察を初めて受けてから1年と5ヶ月。同時にリハビリをスタートして、色々悩んだ末に去年の10月にドクターにお会いしてオペの日を決めて頂いた事、そしてそのX-Dayに向けて色んな準備をして来た事の一つ一つを思い出して、涙が一筋こぼれました。

大丈夫、明日の朝はきっと晴れやか。。

